

全知P連だより

No.
19



富永会長



原島相談役



金成顧問



明官参与



米谷参与



令和7年7月4日（金）品川シーズンテラスにおいて
全知P連「令和7年度 定時総会」を開催いたしました

- P2 会長挨拶
- P3 副会長抱負 / 全知長（本会相談役）挨拶
- P4 予算要望を提出いたしました / 調査研究助成事業について

「実行と発信」子供たちの想いを社会に届ける

【PTAは何の略?】

PTAは "Parent and Teacher Association" の略ですがあえて、その言葉をベースに新たな意味を込め、「実行と発信」を活動の軸とする今年度の想いをPTAで表してみました。PTAの活動は、決して特別な誰かがつくるものではありません。子供たちを支えたいというシンプルな想いを実現していきましょう。

- **Presence** (そばにすること) 子供たちを中心に支える保護者と先生が互いに寄り添い合うこと。
- **Teamwork** (支え合うこと) 保護者・学校・地域などそれぞれのつながり、立場を超えた横のつながりを大事にすること。
- **Advocate** (代弁者となること) 障害のある子供たちの意思形成や意思伝達の力を高め、その想いを社会へ届けるために、保護者と学校が連携すること。

【障害受容と親の葛藤】

子供に障害があると知ったタイミングは、家庭によって本当にさまざまです。「障害受容」という言葉を聞いて、それをしなければいけないのか、と感じる方もいるでしょう。受け入れなければ前に進めないというプレッシャーを感じた方もいるかもしれません。私自身、子供の障害を受容できているかと問われれば、「はい」と答えます。でも、もし「この薬を飲めば障害がなくなる」という薬があれば、きっと飲ませると思います。それは、やはり障害を障害として捉えないほうがいいと思っているということかもしれません。広辞苑には「受容とは、受け入れること。取り入れること。容認すること」とあります。もし薬を飲ませるのが受け入れていないことだとすれば、私は子供の障害を完全には受容できていないのかもしれませんが、それでいいのだと思っています。私たちは、子供の特性や困難さと日々向き合いながら、折り合いをつけ、揺れる心を抱えながら、社会の枠組みの中で一歩ずつ歩んでいます。その揺れ動く想いを自分で容認できていれば、きっとまた前へ進めるのだと感じています。

【さいごに】

この一年、皆様と共に学び合い、支え合いながら、私たちに何ができるのかを問い続けていきたいと思っています。全知P連事務局のサポートのもとに、全国各ブロックを取りまとめる8名の全知P連副会長、そして全知P連を支えてくださるすべての皆様のお力をいただきながら進んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 会長
東京都立田無特別支援学校 PTA会長

富永 美和

令和7年7月4日の全知P連定時総会にて、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会会長に就任いたしました。都立田無特別支援学校PTA会長の富永美和と申します。昨年度に引き続き、全国知的障害教育校PTAの皆さまと共に歩む機会をいただいたことは、大変に身の引き締まる想いであるとともに、子供たちの笑顔と安心・安全な暮らしを実現する未来のために、そして子供たちの代弁者として、一人ひとりの声を社会へつなげていけるよう、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【国への要望提出と想い】

令和7年6月19日、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会(全知P連)を代表し、文部科学省、厚生労働省、こども家庭庁へ要望書を提出し、懇談を行いました。この要望提出および懇談は、全知P連の上部団体である「全国特別支援教育推進連盟」が機会をつくってくださっていることで毎年実現しております。

この度提出した令和8年度全知P連の予算要望書は、次期学習指導要領の改訂を見据え、特別支援教育のさらなる充実を求めるものです。障害があることによって選択肢が狭められることのないよう、すべての子供たちが自分らしく、安心して暮らし、学べる環境の整備を願い、その想いを土台に作成いたしました。要望書の作成にあたり、ご助言をくださった皆様には、改めて感謝を申し上げます。

全知P連副会長としての抱負

北海道札幌養護学校(北海道) 進野 ゆかり

このような重責を拝命し、身の引き締まる思いです。全国各地の経験豊富な関係者の皆様との出会いに刺激を受けながら自身も成長し、何かお役に立てれば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

山形県立新庄養護学校(東北) 秋保 直樹

今年度、副会長になりました、東北ブロック代表の秋保直樹と申します。全国各地の、たくさんの方々との繋がりを大切にしながら、子供たちの成長と幸せのために取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

山梨県立やまびこ支援学校(関東甲信越) 和智 浩二

今年度、副会長になりました、関東甲信越地区の会長を拝命し全知P連の場へ参加する機会を得ました。本年度計画されているイベントへ可能な限り参加を考えています。多くの人に会い、貴重な情報を得て持ち帰り、それを山梨県、関東甲信越ブロックに所属している学校に、いかに落とし込む事ができるか?この部分が今年度、私に課せられている最大の任務だと言いつけています。縁あって出会う事が出来た会長、副会長、事務局の方と共に、今年度の全知P連に貢献できるよう全力、全開でこの一年を駆け抜けたらと思います。

東京都立江東特別支援学校(東京) 西村 正実

このたびPTAの役員としての活動の場が単P&東京都内から全国へと広がることとなりました。全国各ブロックのPTAの様子、取り組みを副会長間で共有し合い、皆様にとって少しでもより良い活動が行えるよう、皆様との繋がりを大切に組み立ててまいりたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

静岡県立浜北特別支援学校(東海北陸) 平松 勇人

令和7年度全知P連副会長を務めさせていただき東海北陸ブロックの平松です。子供たちの笑顔とウェルビーイング向上のために、各PTAの活動内容などを皆様と情報共有することでお互いに高め合うことができるようお手伝いができたらいいと考えています。この貴重な機会をいただきましたことを大切にし、富永会長を支え全知P連を盛り上げていきたいです。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

大阪府立豊中支援学校(近畿) 徳山 郁子

子供たちを取り巻く環境は年々変化しております。健やかな成長を支えるには「人と人とのつながり」が大切です。たくさんの方々を手をつなぎ、笑顔が溢れますよう、少しでもお役に立てればと考えております。

香川県立香川丸亀支援学校(中国四国) 土生 奈加

今年度、副会長を務めさせていただきことになりました。全国の皆さまとつながれる貴重な機会をいただけたことに感謝の気持ちでいっぱい입니다。まだ学ぶべきことが多い立場ではありますが、子供たちが安心・安全に、そして笑顔でのびのびと過ごせる未来のために、自分にできることを一つひとつ丁寧に積み重ねながら、あたたかい輪を広げていけたらと思っています。

大分県立中央支援学校(九州) 宮崎 純平

昨年開校した新設校で、PTAもまだ1年目。息子は小2で、これから長く関わっていきます。九州の窓口として、全国の皆様と繋がりがながら、次世代へとバトンをつなげる存在を目指します。



全国特別支援学校知的障害教育校長会 会長
東京都立町田の丘学園 統括校長(本会 相談役)

原島 広樹

「共に学び支え合う社会の実現に向けて」

支え合う社会の実現に向けた教育の推進を挙げています。

これは、全知P連の50周年東京大会から続くテーマ「多様性を認め合い共に育む心のネットワーク～すべての子供たちの笑顔のために～」と結びつく内容であり、地域や家庭、社会をつなげるネットワークは、PTA活動の目指すものと合致していると思います。全知P連が中心となって全国のPTA活動を活気ある活動にしていくことが求められています。

さて、今、世の中では、学校教育や学校現場の話題が、様々に上がってきています。その中でも、教師不足と働き方改革については、大きな課題の一つです。これは、実は、PTAの組織にとっても同様のことが言えると思います。役員の成り手不足や働きながら活動に参加する方が多い中で、役割分担や業務軽減、オンラインや自宅のできる業務への転換等、それぞれ工夫をされていると思います。PTAに参加して、とても勉強になりましたという声は、いつの時代も聞かれます。今後も、ぜひ、そのような声がたくさん聞かれる活動にしていれば幸いです。学校もPTAも、子供たちの成長のためという目的は変わりません。一人でも、理解者や支援者を増やすためにも、地道に活動や成果を発信していくことが近道なのかもしれません。

結びに、富永会長をはじめ、役員の方々の皆さんを中心とした、全知P連の活動の一層の充実と会員の皆様一人一人のますますの御健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。

【予算要望を提出いたしました】

6月19日、全国特別支援教育推進連盟の加盟団体として、文部科学省と厚生労働省、こども家庭庁へ、要望書を提出し、懇談の機会をいただきました。

全国各地から寄せられた要望をもとに作成した要望書の内容は、全知P連ホームページに掲載しております。また来年度以降の予算要望に向けて、現場での課題や想いをさらに反映できるよう、各地域のブロック長や都道府県代表校を通して、引き続きご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。



文部科学省 生方課長



こども家庭庁（左）鈴木課長補佐（右）縄田専門官



令和8年度
予算編成等の
要望書

【調査研究助成事業について】

本会では、全国の各ブロック・都道府県PTA連合会・加盟校の単位PTAによる、地域特性を生かしたPTA活動の推進、啓発（講演会や冊子制作等）や調査研究（アンケートや実態調査等）の活動を支援しています。

研究内容は、全国共通の課題、または地域特性の課題ではあるものの各地域に参考になる研究内容であることとし、特にテーマについての制限はありません。

募集期間：1月～4月中旬（募集要項は11月頃、ブロック長・都道府県代表者に配布）

選定機関：当該年度の最終の会長・副会長会において選定（5月予定）

選定数：3件まで

助成額：1件につき上限額40万円

報告書：各校2部発送（2月～3月頃）



今年度取り組む
学校PTA

東京都立青鳥特別支援学校PTA

これまでの取り組み

テーマ

「伝えることで、つながる地域へ。わかりにくさを見えるかたちに。」
～知的障害のある子どもへの理解を広げる啓発ポスターとマークの作成～

想い

子どもたちは外見からではわかりにくい困りごとを抱えています。
本人や保護者の「わかってもらえないつらさ」と、地域の方々の「どう接すればよいかわからない不安」のギャップを少しでも埋めるために、2つの取り組みを実施します。

【編集後記】事務局はこの4月に、他の福祉団体等と同じ建物に移転いたしました。
より一層の連携と情報交換に努めてまいります。（広報担当：小野田）

